



2014年度 日本家族看護学会第21回学術集会開催
8月9日・10日東京・川崎医療福祉大学 川崎祐直記念講堂

第21回学術集会を終えて

日本家族看護学会第21回学術集会

大会長 津島 ひろ江(川崎医療大学医療福祉学部保健看護学科)

日本家族看護学会第21回学術集会を2014年8月9日(土)・10日(日)の両日、川崎医療福祉大学(倉敷市)にて開催させていただきました。晴れの国・岡山ですので、天候には恵まれた学会になると期待して準備しましたが、台風が直撃し、交通が全面不通という状況になりました。そのような中、学術集会に900名(発表125題)、プレセミナー教育促進委員会主催の家族看護セミナーに110名、ナーシングサイエンスカフェに76名、八神純子さんを迎えての「被災地とつなぐ」をテーマとした市民公開講座に150名、懇親会に100名を超える延べ1,236名のご参加を頂くことができ、スタッフ一同が喜びをもって学術集会を終了することができました。



大会長 津島ひろ江先生

本学術集会は、今、まさに多領域の看護職がチーム医療の中で直面している『ゆらく家族の意思決定を支える看護』をメインテーマとしましたので、家族の意思決定に関連した会長講演、Johns Hopkins UniversityのDr. Marie Nolan先生の招聘講演、教育講演、シンポジウムが展開されました。さらに理事会企画編集委員会・研究促進委員会合同企画セミナー、ランチョンセミナー等を運営くださいました皆様、そして家族看護学会に熱い思いをもってご参加くださいました皆様に心より感謝申し上げます。

第21回 日本家族看護学会学術集会

交流集会での発表を経験して

滋賀県立成人病センター 松本修一

平成26年8月9日、10日に岡山で開催された日本家族看護学会第21回学術集会で交流集会での発表を行いました。そもそも交流集会で発表することになったのは、恩師である柳原先生(東海大学)が「今年は交流集会でロールプレイを使って「渡辺式」の介入編をやろう!」と数名の教え子たちにメールをされたのがきっかけで、私もそのうちの一人として選んで頂いたからでした。この柳原先生の唐突な提案(先生の中では計画通りかもしれませんが…)は、私たち教え子たちにはどこか懐かしく、そしてなぜか心地よく思え、皆が賛同し発表に向けての取り組みが始まりました。

私たちがこの発表で大事にしたいと考えたことは、現場での有効性でした。つまり現場の看護師たちが使えることであり、そして仕事への意欲が持てることでした。そのため、ロールプレイではなるべく聴講に来てくださる皆さんがよく経験されるであろう事例を用い、リアルさを出すことを心がけました。学会当日までは、私を含めたロールプレイ担当の4名でセリフを考え、“あ~でもない、こうでもない…”と何度かメールでやり取りをし、そして学会当日は実際に読み合わせを行いました。いざ読み合わせを行うと、どこかリアルさに欠けるとのことで本番ギリギリまで調整を行い、最後は“何とかなるさ”と壇上に…。実際やってみるとなんと今までにはないくらいの演技力を発揮し、見事成し遂げることができました。聴講に来てくださった方々からも家族への声の掛け方についての質問や現在の臨床での困りごとについての相談等があり、有意義な時間を過ごせました。

これからも共に学んだ同志とともに家族支援が臨床現場に根付くような活動を展開していければと思います。



交流集会を実施された東海大学のみなさん

